



□アメリカの教育事情 ～その2～

④教室

日本のように「職員室」がなく、先生はそれぞれ自分の「クラス」を持っていて、生徒がそこへ移動して授業を受けます。教室には先生のカバンなどの私物が置かれています。休み時間や授業のない時は、自分の教室でコーヒーやコーラを飲んで休んでいます。

生徒は毎時間教科毎に担当の先生の教室に移動して授業を受けます。教師が教室を移動する日本の学校とは雰囲気がまったく違います。



⑤学期・時間割

学校は9月から始まります。日本のように始業式や終業式がありません。入学式もないので、いきなり授業に入ります。

授業は、小学校・中学校・高校とも時間割が月曜日から金曜日までで、毎日同じというのも日本との大きな違いです。そして、小学校高学年になると、学期毎に取る科目が変わります。

⑥能力別クラス編成

小学校では、進度別クラス編成があります。クラスは能力別の編成になっています。

その他、小・中学校では才能のある生徒のための教育（GATE）の特別クラスもあります。

高校では、能力別クラスがあり、優秀な生徒は、オーナークラスやAPクラス（Advanced Placement）がとれます。

職員室がない学校は想像が付きません。職員会議はどうなっているのか、校長の経営方針の伝達方法など、まだまだ興味深いものがたくさんあります。

□安全を守る警察官

本校の警備員は地元の警察官や警察官OBの方に来ていただいています。

勤務は、子どもたちが在校している間（8時40分～14時40分）、校舎の内外をパトロールしていただいています。IDカードがないと校舎に入れません。

アメリカでは銃刀法規制がないので、発砲事件はよく起きています。どこの州でも、学校で警官や警備員を雇い、数名体制で安全管理を行っています。

アメリカは、公務員が、休日に他で働いて報酬を得ても問題ないのです。（余談ですが、アメリカは定年制がありません）

警察官のロバートさん。→

勿論、腰には拳銃携帯 強面ですがのフレンドリーな方です



□国際連合本部 見学特集 ニューヨーク

国連本部を見学するためには、事前予約が必要です。当日、予約表を持って本部ビル向かいのビジターセンターで予約票とパスポートを見せて写真を撮って入館証を発行してもらい、本部ゲートへ。ここで、空港並の厳しいのセキュリティーチェックを受け、ようやく入館完了です。少々手続きが面倒でした。



NYの本部ビル群の周りに加盟国のすべての国旗が建っていますが、旗と旗との距離は同じ。加盟国どうしの平等を象徴しているとか。国旗は英語のアルファベット順で、アフガニスタンで始まり、ジンバブエで終わっています。

国際連合は第二次世界大戦が終結した1945年に国際紛争の解決と世界平和の維持を目指して創設されました。現在は193か国が加盟しています（2018年現在）。国際連合はNYの他に、ジュネーブとウィーン、ナイロビに主要事務局があります。



“2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう”。大胆かつ新しい「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が2015年9月に国連総会で採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。

17の目標別に、なぜこの目標が設定されたのか、何が問題となっているのか、取り組まなかったらどうなるのか、私たちには何ができるのかなど、考えさせられた見学となりました。



←「国連総会」議場

中央に輝く金の国連エンブレムが印象的で、テレビのニュースで見覚えがあるのではないのでしょうか。

毎年9月～10月にある国連総会が開かれる場所です。各加盟国に6席ずつ与えられており、加盟国すべての代表団を収容できるとても大きなホールです。



←「国連安全保障理事会（安保理）」議場

後ろに巨大な壁画は、大戦からの世界の再建や人々の平等を表現しているそうです。タイトルは『灰から飛び立つ不死鳥』。

「安全保障理事会」は実質的に国際連合の中で最も大きな権限を持っており、事実上の最高意思決定機関とされています。常任理事国はアメリカ合衆国、イギリス、フランス、ロシア、中国の5ヶ国。他に10ヶ国の非常任理事国の、計15国から構成。



←「信託統治理事会」議場

「経済社会理事会」議場→

